

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3894000037
法人名	有限会社 ファーストステップ
事業所名	グループホーム きらり
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城1308番2
自己評価作成日	平成22年6月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 7 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

集団の中での楽しみや、喜びを感じて頂ける事、独りではない、一緒に暮らす仲間がいると言う幸せを感じて頂ける様に、職員を含め皆が笑顔で暮らせるホームをめざしています。また個人個人を見つめ、大切に、個人へのアプローチに力を入れて行きたいと努めています。例えば、マンツーマンのドライブや、買い物、故郷訪問等・・・管理者やリーダーが押し付けるのではなく、職員皆で考え、利用者様と一緒に話し合い、少しずつ前進していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「きらり」と輝いていた時代を大切に、「きらり」と輝ける暮らしを支援することを理念に掲げ、管理者や職員は、利用者に寄り添うケアを日々実践している。利用者は全員地元出身であり、地域の一員として地域の中で普通に生活できるようホームが自治会に加入し、地域の行事にも可能な限り参加している。学習療法を勉強している職員を中心にちぎり絵、ゲーム、本の読み聞かせ等、日常的にレクリエーションを多用して脳のトレーニングも行なっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム きらり

(ユニット名) そら

記入者(管理者)

氏名 萩森 日出子

評価完了日 22年 6月 16日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所の理念を理解し、理念に沿ったケアを実践出来る様に心掛けている。 しかし一人一人のきらりとした生活の支援が出来ているかを考えると、出来ていない部分もあり、職員一人一人がもっと理念を意識し、日々のケアに活かしていないといけない。</p> <p>(外部評価) 開設時、オーナーが作成したホームの理念は「きらり」と輝いていた時代を大切に、「きらり」と輝ける暮らしを支援するという夢を表現したものである。1人の人間として接することの大切さが、基本方針や運営方針に具体的に定められている。管理者、職員ともに共有して実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 皆で挨拶は心掛け、地域の方からも「散歩ですか」等と声をかけて下さる。秋祭りやイベントにも見学としての参加はあるが、その活動の中に入っていない。今後避難訓練等を地域の方と一緒にやる事は計画している。</p> <p>(外部評価) 地域の人達との繋がりを持つために自治会に加入している。オーナーが地域住民の一員として清掃活動に積極的に参加する等接点を持つ努力をした結果、避難訓練に多数の地域の方が参加、協力してくれた。地域との繋がりや本格的な交流は、これからだと努力をしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議においては、認知症について話し合う機会も設けられたが、地域の中では出来ていない。地域の高齢者状況も把握出来ておらず、そこから始めないといけないと思っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 利用者状況の報告・サービスの実際・行事報告等を行い消防署の方に来て頂き、防災の話を伺ったり、その為の地域との連携の話し合いを行った事もある。会議の中で聞く地域の方の思いや意見を全てスタッフに話す事は出来ていない。</p> <p>(外部評価) 会議は定期的開催している。ホームの現状や利用者の状況を報告したり、参加者からの意見や情報をもったりしてサービスの向上に活かしている。具体的な情報交換も活発に行われていることが議事録から読み取ることができる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 問題が発生した時に、担当者に電話をしたり、直接会って相談を行う事がある。担当者の方は対応していただき他の施設等を含めた会議を行う事も出来た。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には必ず担当者の出席があり、支援上の課題について相談したり、サービスについての情報を得たりしている。認定更新の時に、利用者の暮らしぶりやニーズを伝えさらに連携を深めている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束は行っていない。夜間のみ玄関に施錠を行っている。 徘徊・帰宅願望の方もおられるが、カンファレンス等で話し合い、スタッフ間で統一したケアを行い、その方の安全や人格を守る努力を行っている。</p> <p>(外部評価) 職員はホーム内での勉強会で学習しており身体拘束の弊害を認識し、身体拘束をしないケア実践している。また、言葉の拘束についても職員間で協議しながら拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間のみ玄関の施錠をしている。</p>	「指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」等、内部での勉強会でより理解を深めたり、外部研修会に参加し、さらに職員の一人ひとりがレベルアップすることを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はあってはならないという意識を強く持ち、介護を行っている。又互いに、この場面でこんな事を言ってしまったと反省している場面もみかける。又スタッフの中にストレスが貯まらないように、スタッフの意見等を聞く機会を設けるように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) まだまだ勉強不足であり、家族等に周知していないと思われる。今後勉強会等を行いたいと思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約を交わす際には、利用者や家族等と書面を基に、時間をかけて解りやすく、十分納得して頂ける説明に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者・家族から伺った、サービスに関する意見・希望等は、皆で話し合い出来るだけ対応している。又困難な要望に関しては、上司との相談ののち、利用者・家族に報告し、改善出来るように努力する事をお話させて頂いている。 (外部評価) 家族が面会にきた時に、意見や要望など把握するよう努めている。家族からの意見はあまりないが、細かなことでも早急に対応するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) カンファレンスに於いて、職員の意見・提案を聞き対応している。又リーダー2名・管理者・代表者の4名の会議に於いて、現場スタッフの考えや思いを、リーダーを通じ聞き取る機会を設けている。全てを反映していないが、検討ののち、決定している。 (外部評価) オーナーは職員一人ひとりとの面談を行い、意見や要望を聞いている。また、管理者も各ユニットのリーダーと連携して聞き取れるよう努力している。外部研修も職員が希望すれば受講できるよう調整をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 半年に一度の業務の自己評価を行い、また適宜面談を行いながら、職員の努力・実績等を把握し、今後の処遇・職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部から講師を招いての研修を数回実施した。またグループホーム連絡協議会等からの研修を受講している。 今後は内部研修として、職員が講師としての研修やミニ勉強会を開催したいと考える。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県のグループホーム連絡協議会には所属している。グループホーム同志が見学に行ったり、来たりという交流はある。今後相互研修の参加を考えている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 申し込みがあり、訪問に行く際は、居宅事業所等から頂いた書類に目は通すが、ご本人に逢い、改めてご本人からのお話を聞き、要望や困っている事を聞き取れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、家族等が困っておられる事、不安な事、求められている事をよく聞き、まず必要としている支援を見極めながら、話し合い、受け止めるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 当施設の利用と共に、病院受診・理容・買い物等継続して行きたいサービスの確認を行い、どの様に対応していくかを、家族・本人と相談し、出来るだけ要望に沿うように努めている。 又職員は、本人・家族に出来るだけ多くの声をかけ、馴染みの関係・信頼関係の構築に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) “同じ目線で話をする” “人生の先輩として敬う気持ちを持つ”事に心がけ、共に食事をしたり、洗濯物をたたんだり、一緒に外出し、花を見て喜んだり、解らない事を教えて頂いたりして、支え合う関係を築くように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員だけが介護を行うのではなく、家族と共に介護している気持ちを持っている。 行事の声かけ・参加もあり、外出・外泊を家族が行ってくださり、入居後も家族との関係は、途切れる事なく続いており、職員もご本人の状況を随時報告し、時には相談し、一緒に本人を支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人に逢い、場所に行く事も、出来ている方、そうでない方がいる。家族や知人の面会、出先で偶然知人に逢う事等はあっても、逢いに行くと言う事はなかなか出来ていない。又、故郷や住んでいた家の事等もよく話され、訪ねて行きたいが、全員には行えていない。一部の方には行えた。 (外部評価) 利用者の住み慣れた家に行き、親戚や近所の方と会うなど利用者が大切にしてきた人や場所に行ったり、家族等の関係者から情報収集をしたりして、今までの関係が継続されるように配慮しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者間で仲良しの方・そうでない方が出来ている。集団のレク・リハ等で、トラブルが起こらない様に、見守り・声かけし、時には気の合った方同志のドライブ等も行っている。 又集団ばかりでなく、その方のその時の気持ちを大切に、一人で居る時は見守りに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方全員ではないが、一部の方には、仲の良かった方と共に面会に行ったり、向こうから来て頂いたりしてもらっている。 又家族に出会えば「どうですか」と、挨拶・声かけを行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) カンファレンスでの情報交換はもちろん、日々の関わりの中で得た情報（希望・意向を含め）を申し送りノートやアセスメント表に記録し、皆で共有している。その情報をもとに、チームで随時話し合い、サービスを提供している。 (外部評価) 日頃から利用者に関わる時間を大切にし、会話や表情の中から思いや意向の把握したり、面会時等に家族ともよく話し合ったりしながら利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。ケアの中での気付きは、申し送りノートやアセスメント表に記録し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前後のアセスメントはもちろん、入居後も知り得た情報は個別の記録に記入したり、カンファレンスで話し合う。食事等を例にとると、終わる時にお茶漬けをしていた方は、それを行って頂き、夜間にどうしても何か食べないといけない方は、家族の希望も伺い対応している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 「折り鶴が上手い」「ギョウザの皮包みが手早い」等利用者の新しい面の発見の声が聞こえている。一日の過ごし方は大体同じだが、その中で休憩の時間・散歩の時間等、個別性もあり対応している。バイタル測定・観察・会話等からスタッフ全員で利用者の心身の状態の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 本人・家族の意見・要望を聞きながら、職員全員で意見を出し合い、ADL等も検討しながら、アセスメント・モニタリングを基に、利用者を多方面から見つめ、今のその方に一番良いと思われる計画を立案している。本人の参加も数回行ったが、時間的な事もあり現在は行えていない。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の思いや意向、状況に合わせて担当職員を中心に職員全員で意見を出し合って介護計画を作成している。モニタリングを月1回行い状況確認をし、現状に合った介護計画の見直しを行っている。介護計画は家族にも確認してもらっている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 実践・結果は記録されているが、気づき・工夫・その時の利用者の細かい状態・職員の対応等の記録が不十分と思える。ケアプランの見直しは、カンファ等で情報交換を行い活かされているが、記録面は今後の課題と考える。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族・本人のニーズに逢わせ、外泊の長期（5日間）希望にも対応している。又外泊時に必要な車椅子の相談にも応じ支援している。 常に柔軟な姿勢を持とうと心掛けている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域内の理容店を利用したり、消防署の協力を得て、消防訓練を行い、安全で豊かな暮らしが出来るように支援している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族の要望で入居前からのかかりつけ医が良い と言われる方には、継続して受診援助を行っている。 そうでない方は、近くの医院に協力を仰いでおり、体 調不良時の相談・受診を行い、異常時には、休日受 診・夜間の受診にも対応して頂いている。 (外部評価) 利用前からのかかりつけ医や希望する病院の受診をし ている。受診は基本的に職員が付き添い、診察結果を 家族に報告している。急変時はホームの協力医療機関 から往診も可能で、適切な医療が受けられるよう支援 している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協働出来ており、日々情報を共有して異常の早期発 見・健康管理に努めている。 又疾患・症状等の相談もあり助言・指導している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療機関との電話連絡を行い、時にはカンファレンス に参加し情報交換し、入院中および退院に向けての支 援を行っている。又入院中は度々面会に行き、本人・ 家族との信頼関係、病院関係者との関係作りに努めて いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ホームの指針を書簡にして利用者家族に同意を得てい る。看取りはまだ行っていない。重度化する前の段階 で家族に話をしており、家族の意向も聞いている。 現在の当施設の状態においては、看取りを行う力や状 況が整っていない。研修他の課題がある。 (外部評価) 利用開始時に、看取りに関する指針に基づきホームに おける介護の考え方を説明している。ホームとして看 取りについての経験はないが、消防署の協力を得て緊 急時の心肺蘇生法等の内部研修を行うなど利用者が安 心して生活できるよう努力していることが伺える。	利用者や家族の思いは、その時の状況によって変化す ることもあり、その都度家族との話し合いは密に持つ 必要がある。また、管理者や職員、協力医療機関等の 関係者でよく検討し学習を強化することにより、今以 上に利用者や家族が安心できるような体制づくりが望 まれる。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルは作成されており、応急処置や初期対応の訓練は受けたが、まだ一回だけである。実践はおこなっていない。 急変時の対応もまだあたっていない者もあり、不安は持っている。繰り返しの訓練が必要と考える。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 施設内のみでの火災時の避難訓練は行ってきている。近日中に地域の方との避難訓練を行う予定になっている。 他の災害時における具体的な訓練や、避難方法等の徹底が出来ていない。地域推進会議でも話に出すが、「ひとまず〇〇やな」と言う段階で止まっており、詳細の検討が急がれると思っている。 (外部評価) 年2回消防署の指導のもと、避難訓練を実施している。オーナーが地区の清掃活動に参加した際に地域の協力が得られるよう働きかけ、地域住民の参加、協力による避難訓練を実施することができた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者を尊重し、言葉や態度に注意し、プライバシーの確保にも心掛けている。利用者一人一人の性格・生活歴等も対応には必要であり、情報は共有するように努めている。 職員の心の中に利用者様への慣れが生じ、あれ？と思う言葉・態度をしている時があり、カンファの時及び個々に注意していかないといけない。 (外部評価) 日常生活の中でのトイレ誘導や入浴時の対応には利用者の誇りやプライバシーを損なう事がないよう一人ひとりに気配りしながら目立たずさりげない言葉かけで対応している。接遇の講師を招き内部研修を実施し、職員の意識を新たに作る等の取り組みもなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご自分の意思が訴えられたり、「いや」「〇〇したい」と言える方には、働きかけも出来、希望に添えられるように努めている。 意思表示が出来ない方にも、表情や行動からくみ取ろうとしているが、職員側で判断、決定してしまう事もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来ている時、出来ていない時が、一日の中でも見受けられる。職員・事業所の決めた流れに沿って、一日を過ごす事が多いと思うが、その中で、利用者一人一人の望みや、ペースを把握し、それに沿った支援を行っている(例えば、休憩・トイレ・TVを見たい等…)	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族の協力も得、衣替えを一緒に行ったり、本人の望む衣類を買いに行ったりしている。また理美容院は協力店があるが、本人の希望で入所前から利用している所にお連れする方もいる。 女性は希望により、化粧品を使用される方もおられ、そのような思いはプランにも取り上げ、大切にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の利用者の出来る範囲で一緒に行っている。台拭きの出来る方、味見の出来る方、下ごしらえも出来る方、食事の調理は嫌だがオヤツは作れる方等、それぞれの出来る力・意欲に沿って支援している。 又昼食は職員も一緒に楽しみながら食べている。 (外部評価) 利用者と職員が一緒にテーブルを囲んで楽しく食事が出来るよう、雰囲気づくりに配慮している。支援の必要な利用者には、職員が横に座り適切な介護がなされている。また、利用者の状態に合わせてとろみをつけたり、ミキサー食にする等の対応もなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が立てた献立に沿った食事を提供している。摂取量・水分量に注意し、体重も2回/月測定している。 又食事の形態や時間においても、工夫の必要な方には対応している。特に水分不足は、脱水・せん妄に繋がる事を、職員は理解・注意し、摂取出来るように、工夫・声かけを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを行っており、一人一人のレベルに応じた援助を行っている。又個々の歯・歯肉他の状態を観察し、必要に応じて協力歯科受診を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表により排泄パターンを把握し、一人一人にあった声かけ、介助を行っている。自立にむけてオムツから紙パンツ、布パンツ、パット対応等の話し合いをし、トイレで気持ち良く、排泄が出来るように支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用しながら、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し声かけ、誘導を周囲への十分な配慮をしながら行なっている。日中は、トイレでの排泄を重点に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医の指示による下剤もあり、使用もしているが、食事や水分摂取の工夫・散歩・腹部マッサージ等も行って頂き、人によっては朝一番に牛乳を飲んで頂く事でスムーズに排便されている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 現在はどうしても夜間に入浴したいと言う方がいないが今後その様な方も現れると思う。入浴の時間帯についての検討が必要と思われる。 入浴拒否の方も居るが、タイミングをみて声かけたり、誘導する事で2～3回/週の入浴を行っている。	
			(外部評価) 週2～3回の入浴を基本としているが、入浴を拒む利用者には声かけや対応の工夫をして気持ちよく入浴できるように支援している。浴室には安全、安心、軽快に入浴できるよう入浴リフトを設置している。失禁があった時にも、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人のその日の体調・気持ちを把握し、部屋の明るさ・温度・使用する寝具に気を配り、気持ち良く眠られるように心掛けている。また昼間でも休息をとりたい時は、休んで頂き、夜間も安心して眠って頂ける様に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員により差がある様に思う。薬効・副作用についても理解し、不明な点は説明書を見たり、他職員に聞く者もいれば、理解できていない者もいる。服薬は必ず確認し、記録されている。服用する事により症状が改善したかどうかについての記録も出来ている者、いない者がいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ケアプランの中にも取り入れて行っている。今出来る事を行って頂こうと、野菜作り・洗濯物入れたたみ・テーブル拭き等・行われ、気分転換の目的で、ピクニックやドライブ、季節感を感じて頂く料理やチギリ絵等を行い家族の協力のもと自宅訪問も行う事もある。が、まだまだ支援が足りないと考えている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 上記同様、自宅訪問を行ったり、地元へのドライブには時に行っている。買い物に行きたいと言う要望にも出来るだけ応えられている。数名だが外食も行えた。他は日光浴・外気浴を行い、五感で季節を感じて頂くように努めている。 (外部評価) 利用者全員が地元の出身者で、買い物、散歩、受診時には知人に会うことができる。ピクニック等を行う時は家族にも参加、協力してもらい楽しく行えるよう支援している。重度化に伴い、外出する利用者は限られてきている状況である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理が出来る方、支援の必要な方等、個々の利用者の力量に応じた支援を行っている。しかし家族の考えにより、お金を持たせていなく、「お金がなくてつらい」と言われる方もおられる。家族との話し合いが必要と思われる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも本人の希望される時に、電話をかけたり、手紙のやりとりが出来る。取り次ぎを希望される時は、職員が間に入り意思疎通が出来るよう支援している。又、ケアプランに電話・手紙を出したり、もらう事を挙げている方もおり、家族から手紙をもらい喜んで読まれている姿も見られる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 静かな環境であり、リビングには大きな窓があり、日が差し込み、風が入り、利用者の憩いの場となっている。リビングは車椅子での移動も容易であり、手摺りを設置し歩行者への安全の配慮も行っている。又玄関やリビング、トイレ等に花を飾り、季節感を感じて頂けるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 共用空間は適度な広さが確保され、利用者がどこにいても動きが確認できる。日中は、リビングで過ごす利用者が多く、壁には利用者と職員の合作のちぎり絵等の作品が飾られたり、季節の飾りつけがなされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共用空間で独りになる事は難しい。居室において独りになれる。共用空間では、それぞれの居場所が何となく決まっており、気の合った方同志で話もされている。又集団レク等を行う時には、座る場所に配慮して、気持ち良く過ごして頂けるように努めている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 個々の居室は、家族の写真を飾ったり、亡夫の位牌を持ってこられたりと、各々が過ごしやすいように家具の配置にも考慮し、出来るだけ使い慣れた物を自宅から持って来て頂いて使用している。</p> <p>(外部評価) 居室に利用者の使い慣れたタンスや仏壇等が持ち込まれ、家族の写真が飾られている。電動ベッドやエアコン等は、備え付けの物があり、それらを上手に利用しながら居心地よく過ごしている様子が伺える。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物の内部は、もちろんバリアフリーで手摺りも設置している。 個人の安全な環境づくりとして、ベッドの高さの工夫・Pトイレの位置の設定・Pトイレの固定・車椅子、歩行器等の必要性の検討・置き場所の工夫等を行った。 まだ食器等について個別性が無い為、今後検討が必要と思われる。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3894000037
法人名	有限会社 ファーストステップ
事業所名	グループホーム きらり
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城1308番2
自己評価作成日	平成22年6月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 7 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

集団の中での楽しみや、喜びを感じて頂ける事、独りではない、一緒に暮らす仲間がいると言う幸せを感じて頂ける様に、職員を含め皆が笑顔で暮らせるホームをめざしています。また個人個人を見つめ、大切に、個人へのアプローチに力を入れて行きたいと努めています。例えば、マンツーマンのドライブや、買い物、故郷訪問等…管理者やリーダーが押し付けるのではなく、職員皆で考え、利用者様と一緒に話し合い、少しずつ前進していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「きらり」と輝いていた時代を大切に、「きらり」と輝ける暮らしを支援することを理念に掲げ、管理者や職員は、利用者に寄り添うケアを日々実践している。利用者は全員地元出身であり、地域の一人として地域の中で普通に生活できるようホームが自治会に加入し、地域の行事にも可能な限り参加している。学習療法を勉強している職員を中心にちぎり絵、ゲーム、本の読み聞かせ等、日常的にレクリエーションを多用して脳のトレーニングも行なっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム きらり

(ユニット名) うみ

記入者(管理者)

氏名 萩森 日出子

評価完了日 22年 6月 16日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所の理念を理解し、理念に沿ったケアを実践出来る様に心掛けている。 しかし一人一人のきらりとした生活の支援が出来ているかを考えると、出来ていない部分もあり、職員一人一人がもっと理念を意識し、日々のケアに活かしていないといけない。</p> <p>(外部評価) 開設時、オーナーが作成したホームの理念は「きらり」と輝いていた時代を大切に、「きらり」と輝ける暮らしを支援するという夢を表現したものである。1人の人間として接することの大切さが、基本方針や運営方針に具体的に定められている。管理者、職員ともに共有して実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 皆で挨拶は心掛け、地域の方からも「散歩ですか」等と声をかけて下さる。秋祭りやイベントにも見学としての参加はあるが、その活動の中に入っていない。今後避難訓練等を地域の方と一緒にやる事は計画している。</p> <p>(外部評価) 地域の人達との繋がりを持つために自治会に加入している。オーナーが地域住民の一員として清掃活動に積極的に参加する等接点を持つ努力をした結果、避難訓練に多数の地域の方が参加、協力してくれた。地域との繋がりや本格的な交流は、これからだと努力をしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議においては、認知症について話し合う機会も設けられたが、地域の中では出来ていない。地域の高齢者状況も把握出来ておらず、そこから始めないといけないと思っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者状況の報告・サービスの実際・行事報告等を行い消防署の方に来て頂き、防災の話を伺ったり、その為の地域との連携の話し合いを行った事もある。会議の中で聞く地域の方の思いや意見を全てスタッフに話す事は出来ていない。	
			(外部評価) 会議は定期的開催している。ホームの現状や利用者の状況を報告したり、参加者からの意見や情報をもったりしてサービスの向上に活かしている。具体的な情報交換も活発に行われていることが議事録から読み取ることができる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 問題が発生した時に、担当者に電話をしたり、直接会って相談を行う事がある。担当者の方は対応していただき他施設等を含めた会議を行う事も出来た。	
			(外部評価) 運営推進会議には必ず担当者の出席があり、支援上の課題について相談したり、サービスについての情報を得たりしている。認定更新の時に、利用者の暮らしぶりやニーズを伝えさらに連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。夜間のみ玄関に施錠を行っている。 徘徊・帰宅願望の方もおられるが、カンファレンス等で話し合い、スタッフ間で統一したケアを行い、その方の安全や人格を守る努力を行っている。	
			(外部評価) 職員はホーム内での勉強会で学習しており身体拘束の弊害を認識し、身体拘束をしないケア実践している。また、言葉の拘束についても職員間で協議しながら拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間のみ玄関の施錠をしている。	「指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」等、内部での勉強会でより理解を深めたり、外部研修会に参加し、さらに職員の一人ひとりがレベルアップすることを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はあってはならないという意識を強く持ち、介護を行っている。又互いに、この場面でこんな事を言ってしまったと反省している場面もみかける。又スタッフの中にストレスが貯まらないように、スタッフの意見等を聞く機会を設けるように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) まだまだ勉強不足であり、家族等に周知していないと思われる。今後勉強会等を行いたいと思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約を交わす際には、利用者や家族等と書面を基に、時間をかけて解りやすく、十分納得して頂ける説明に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者・家族から伺った、サービスに関する意見・希望等は、皆で話し合い出来るだけ対応している。又困難な要望に関しては、上司との相談ののち、利用者・家族に報告し、改善出来るように努力する事をお話させて頂いている。 (外部評価) 家族が面会にきた時に、意見や要望など把握するよう努めている。家族からの意見はあまりないが、細かなことでも早急に対応するよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) カンファレンスに於いて、職員の意見・提案を聞き対応している。又リーダー2名・管理者・代表者の4名の会議に於いて、現場スタッフの考えや思いを、リーダーを通じ聞き取る機会を設けている。全てを反映していないが、検討ののち、決定している。 (外部評価) オーナーは職員一人ひとりとの面談を行い、意見や要望を聞いている。また、管理者も各ユニットのリーダーと連携して聞き取れるよう努力している。外部研修も職員が希望すれば受講できるよう調整をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 半年に一度の業務の自己評価を行い、また適宜面談を行いながら、職員の努力・実績等を把握し、今後の処遇・職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部から講師を招いての研修を数回実施した。またグループホーム連絡協議会等からの研修を受講している。 今後は内部研修として、職員が講師としての研修やミニ勉強会を開催したいと考える。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県のグループホーム連絡協議会には所属している。グループホーム同志が見学に行ったり、来たりという交流はある。今後相互研修の参加を考えている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 申し込みがあり、訪問に行く際は、居宅事業所等から頂いた書類に目は通すが、ご本人に逢い、改めてご本人からのお話を聞き、要望や困っている事を聞き取れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、家族等が困っておられる事、不安な事、求められている事をよく聞き、まず必要としている支援を見極めながら、話し合い、受け止めるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 当施設の利用と共に、病院受診・理容・買い物等継続して行きたいサービスの確認を行い、どの様に対応していくかを、家族・本人と相談し、出来るだけ要望に沿うように努めている。 又職員は、本人・家族に出来るだけ多くの声をかけ、馴染みの関係・信頼関係の構築に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) “同じ目線で話をする” “人生の先輩として敬う気持ちを持つ”事に心がけ、共に食事をしたり、洗濯物をたたんだり、一緒に外出し、花を見て喜んだり、解らない事を教えて頂いたりして、支え合う関係を築くように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員だけが介護を行うのではなく、家族と共に介護している気持ちを持っている。 行事の声かけ・参加もあり、外出・外泊を家族が行ってくださり、入居後も家族との関係は、途切れる事なく続いており、職員もご本人の状況を随時報告し、時には相談し、一緒に本人を支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人に逢い、場所に行く事も、出来ている方、そうでない方がいる。家族や知人の面会、出先で偶然知人に逢う事等はあっても、逢いに行くと言う事はなかなか出来ていない。又、故郷や住んでいた家の事等もよく話され、訪ねて行きたいが、全員には行えていない。一部の方には行えた。 (外部評価) 利用者の住み慣れた家に行き、親戚や近所の方と会うなど利用者が大切にしてきた人や場所に行ったり、家族等の関係者から情報収集をしたりして、今までの関係が継続されるように配慮しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者間で仲良しの方・そうでない方が出来ている。集団のレク・リハ等で、トラブルが起こらない様に、見守り・声かけし、時には気の合った方同志のドライブ等も行っている。 又集団ばかりでなく、その方のその時の気持ちを大切に、一人で居る時は見守りに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方全員ではないが、一部の方には、仲の良かった方と共に面会に行ったり、向こうから来て頂いたりしてもらっている。 又家族に出会えば「どうですか」と、挨拶・声かけを行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) カンファレンスでの情報交換はもちろん、日々の関わりの中で得た情報（希望・意向を含め）を申し送りノートやアセスメント表に記録し、皆で共有している。その情報をもとに、チームで随時話し合い、サービスを提供している。 (外部評価) 日頃から利用者に関わる時間を大切にし、会話や表情の中から思いや意向の把握したり、面会時等に家族ともよく話し合ったりしながら利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。ケアの中での気付きは、申し送りノートやアセスメント表に記録し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前後のアセスメントはもちろん、入居後も知り得た情報は個別の記録に記入したり、カンファレンスで話し合う。食事等を例にとると、終わる時にお茶漬けをしていた方は、それを行って頂き、夜間にどうしても何か食べないといけない方は、家族の希望も伺い対応している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 「折り鶴が上手い」「ギョウザの皮包みが手早い」等利用者の新しい面の発見の声が聞こえている。一日の過ごし方は大体同じだが、その中で休憩の時間・散歩の時間等、個別性もあり対応している。バイタル測定・観察・会話等からスタッフ全員で利用者の心身の状態の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族の意見・要望を聞きながら、職員全員で意見を出し合い、ADL等も検討しながら、アセスメント・モニタリングを基に、利用者を多方面から見つめ、今のその方に一番良いと思われる計画を立案している。本人の参加も数回行ったが、時間的な事もあり現在は行えていない。 (外部評価) 利用者や家族の思いや意向、状況に合わせて担当職員を中心に職員全員で意見を出し合って介護計画を作成している。モニタリングを月1回行い状況確認をし、現状に合った介護計画の見直しを行っている。介護計画は家族にも確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 実践・結果は記録されているが、気づき・工夫・その時の利用者の細かい状態・職員の対応等の記録が不十分と思える。ケアプランの見直しは、カンファ等で情報交換を行い活かされているが、記録面は今後の課題と考える。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族・本人のニーズに逢わせ、外泊の長期(5日間)希望にも対応している。又外泊時に必要な車椅子の相談にも応じ支援している。 常に柔軟な姿勢を持とうと心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域内の理容店を利用したり、消防署の協力を得て、消防訓練を行い、安全で豊かな暮らしが出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族の要望で入居前からのかかりつけ医が良い と言われる方には、継続して受診援助を行っている。 そうでない方は、近くの医院に協力を仰いでおり、体 調不良時の相談・受診を行い、異常時には、休日受 診・夜間の受診にも対応して頂いている。 (外部評価) 利用前からのかかりつけ医や希望する病院の受診をし ている。受診は基本的に職員が付き添い、診察結果を 家族に報告している。急変時はホームの協力医療機関 から往診も可能で、適切な医療が受けられるよう支援 している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協働出来ており、日々情報を共有して異常の早期発 見・健康管理に努めている。 又疾患・症状等の相談もあり助言・指導している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療機関との電話連絡を行い、時にはカンファレンス に参加し情報交換し、入院中および退院に向けての支 援を行っている。又入院中は度々面会に行き、本人・ 家族との信頼関係、病院関係者との関係作りに努めて いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ホームの指針を書簡にして利用者家族に同意を得てい る。看取りはまだ行っていない。重度化する前の段階 で家族に話をしており、家族の意向も聞いている。 現在の当施設の状態においては、看取りを行う力や状 況が整っていない。研修他の課題がある。 (外部評価) 利用開始時に、看取りに関する指針に基づきホームに おける介護の考え方を説明している。ホームとして看 取りについての経験はないが、消防署の協力を得て緊 急時の心肺蘇生法等の内部研修を行うなど利用者が安 心して生活できるよう努力していることが伺える。	利用者や家族の思いは、その時の状況によって変化す ることもあり、その都度家族との話し合いは密に持つ 必要がある。また、管理者や職員、協力医療機関等の 関係者でよく検討し学習を強化することにより、今以 上に利用者や家族が安心できるような体制づくりが望 まれる。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルは作成されており、応急処置や初期対応の訓練は受けたが、まだ一回だけである。実践はおこなっていない。 急変時の対応もまだあたっていない者もあり、不安は持っている。繰り返しの訓練が必要と考える。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 施設内のみでの火災時の避難訓練は行ってきていた。近日に地域の方との避難訓練を行う予定になっている。他の災害時における具体的な訓練や、避難方法等の徹底が出来ていない。地域推進会議でも話に出すが、「ひとまず〇〇やな」と言う段階で止まっており、詳細の検討が急がれると思っている。 (外部評価) 年2回消防署の指導のもと、避難訓練を実施している。オーナーが地区の清掃活動に参加した際に地域の協力が得られるよう働きかけ、地域住民の参加、協力による避難訓練を実施することができた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者を尊重し、言葉や態度に注意し、プライバシーの確保にも心掛けている。利用者一人一人の性格・生活歴等も対応には必要であり、情報は共有するように努めている。 職員の心の中に利用者様への慣れが生じ、あれ？と思う言葉・態度をしている時があり、カンファの時及び個々に注意していかないといけない。 (外部評価) 日常生活の中でのトイレ誘導や入浴時の対応には利用者の誇りやプライバシーを損なう事がないよう一人ひとりに気配りしながら目立たずさりげない言葉かけで対応している。接遇の講師を招き内部研修を実施し、職員の意識を新たにす等の取り組みもなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご自分の意思が訴えられたり、「いや」「〇〇したい」と言える方には、働きかけも出来、希望に添えられるように努めている。 意思表示が出来ない方にも、表情や行動からくみ取ろうとしているが、職員側で判断、決定してしまう事もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来ている時、出来ていない時が、一日の中でも見受けられる。職員・事業所の決めた流れに沿って、一日を過ごす事が多いと思うが、その中で、利用者一人一人の望みや、ペースを把握し、それに沿った支援を行っている(例えば、休憩・トイレ・TVを見たい等…)	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族の協力も得、衣替えを一緒に行ったり、本人の望む衣類を買いに行ったりしている。また美容院は協力店があるが、本人の希望で入所前から利用している所にお連れする方もいる。女性は希望により、化粧品を使用される方もおられ、その様な思いはプランにも取り上げ、大切にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の利用者の出来る範囲で一緒に行っている。台拭きの出来る方、味見の出来る方、下ごしらえも出来る方、食事の調理は嫌だがオヤツは作れる方等、それぞれの出来る力・意欲に沿って支援している。又昼食は職員も一緒に楽しみながら食べている。 (外部評価) 利用者と職員が一緒にテーブルを囲んで楽しく食事が出来るよう、雰囲気づくりに配慮している。支援の必要な利用者には、職員が横に座り適切な介護がなされている。また、利用者の状態に合わせてとろみをつけたり、ミキサー食にする等の対応もなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が立てた献立に沿った食事を提供している。摂取量・水分量に注意し、体重も2回/月測定している。又食事の形態や時間においても、工夫の必要な方には対応している。特に水分不足は、脱水・せん妄に繋がる事を、職員は理解・注意し、摂取出来るように、工夫・声かけを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを行っており、一人一人のレベルに応じた援助を行っている。又個々の歯・歯肉他の状態を観察し、必要に応じて協力歯科受診を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表により排泄パターンを把握し、一人一人にあった声かけ、介助を行っている。自立にむけてオムツから紙パンツ、布パンツ、パット対応等の話し合いをし、トイレで気持ち良く、排泄が出来るように支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用しながら、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し声かけ、誘導を周囲への十分な配慮をしながら行なっている。日中は、トイレでの排泄を重点に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医の指示による下剤もあり、使用もしているが、食事や水分摂取の工夫・散歩・腹部マッサージ等も行って頂き、人によっては朝一番に牛乳を飲んで頂く事でスムーズに排便されている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 現在はどうしても夜間に入浴したいと言う方がいないが今後その様な方も現れると思う。入浴の時間帯についての検討が必要と思われる。 入浴拒否の方も居るが、タイミングをみて声かけたり、誘導する事で2～3回/週の入浴を行っている。	
			(外部評価) 週2～3回の入浴を基本としているが、入浴を拒む利用者には声かけや対応の工夫をして気持ちよく入浴できるように支援している。浴室には安全、安心、軽快に入浴できるよう入浴リフトを設置している。失禁があった時にも、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人のその日の体調・気持ちを把握し、部屋の明るさ・温度・使用する寝具に気を配り、気持ち良く眠られるように心掛けている。また昼間でも休息をとりたい時は、休んで頂き、夜間も安心して眠って頂ける様に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員により差がある様に思う。薬効・副作用についても理解し、不明な点は説明書を見たり、他職員に聞く者もいれば、理解できていない者もいる。服薬は必ず確認し、記録されている。服用する事により症状が改善したかどうかについての記録も出来ている者、いない者がいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ケアプランの中にも取り入れて行っている。今出来る事を行って頂こうと、野菜作り・洗濯物入れたたみ・テーブル拭き等行われ、気分転換の目的で、ピクニックやドライブ、季節感を感じて頂く料理やチギリ絵等を行い家族の協力のもと自宅訪問も行う事もあるが、まだまだ支援が足りないと考える。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 上記同様、自宅訪問を行ったり、地元へのドライブには時に行っている。買い物に行きたいと言う要望にも出来るだけ応えられている。数名だが外食も行った。他は日光浴・外気浴を行い、五感で季節を感じて頂くように努めている。	
			(外部評価) 利用者全員が地元の出身者で、買い物、散歩、受診時には知人に会うことができる。ピクニック等を行う時は家族にも参加、協力してもらい楽しく行えるよう支援している。重度化に伴い、外出する利用者は限られてきている状況である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理が出来る方、支援の必要な方等、個々の利用者の力量に応じた支援を行っている。しかし家族の考えにより、お金を持たせていなく、「お金がなくてつらい」と言われる方もおられる。家族との話し合いが必要と思われる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも本人の希望される時に、電話をかけたり、手紙のやりとりが出来る。取り次ぎを希望される時は、職員が間に入り意思疎通が出来るよう支援している。又、ケアプランに電話・手紙を出したり、もらう事を挙げている方もおり、家族から手紙をもらい喜んで読まれている姿も見られる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 静かな環境であり、リビングには大きな窓があり、日が差し込み、風が入り、利用者の憩いの場となっている。リビングは車椅子での移動も容易であり、手摺りを設置し歩行者への安全の配慮も行っている。又玄関やリビング、トイレ等に花を飾り、季節感を感じて頂けるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 共用空間は適度な広さが確保され、利用者がどこにいても動きが確認できる。日中は、リビングで過ごす利用者が多く、壁には利用者と職員の合作のちぎり絵等の作品が飾られたり、季節の飾りつけがなされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共用空間で独りになる事は難しい。居室において独りになれる。共用空間では、それぞれの居場所が何となく決まっており、気の合った方同志で話もされている。又集団レク等を行う時には、座る場所に配慮して、気持ち良く過ごして頂けるように努めている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 個々の居室は、家族の写真を飾ったり、亡夫の位牌を持ってこられたりと、各々が過ごしやすいように家具の配置にも考慮し、出来るだけ使い慣れた物を自宅から持って来て頂いて使用している。</p> <p>(外部評価) 居室に利用者の使い慣れたタンスや仏壇等が持ち込まれ、家族の写真が飾られている。電動ベッドやエアコン等は、備え付けの物があり、それらを上手に利用しながら居心地よく過ごしている様子が伺える。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物の内部は、もちろんバリアフリーで手摺りも設置している。個人の安全な環境づくりとして、ベッドの高さの工夫・Pトイレの位置の設定・Pトイレの固定・車椅子、歩行器等の必要性の検討・置き場所の工夫等を行った。まだ食器等について個別性が無い為、今後検討が必要と思われる。</p>	